19 ジヴェルニーのモネの家（2020 年 12 月 17 日）

ジヴェルニーにあるクロード・モネの家は、パリから日帰りで行かれることもあり、例年であれば多くの日本人観光客が訪れる観光地です。

モネの死後に息子のミシェル・モネが、マルモッタン美術館にモネの作品を遺贈した後、空き家となったジヴェルニーの家と庭は荒れ果てていました。1980 年にクロード・モネ財団が設立されて、本格的に家の修復が進められました。

家の中には、壁一面に浮世絵が展示されており、モネが熱心な浮世絵コレクターであったことがわかります（ただし、作品保護のために実際に展示されているものは複製品。）。モネが愛用したと言われる日本製の白い置物の猫は、モネの孫娘の死後に競売にかけられました。しかし、日本人がそれを購入して 2018 年にモネの家に寄贈したものだそうです。

庭師の方によるとモネの生前からある木はほとんど残っていないそうですが、庭には多くの草花が植えられています。その数は、庭師の方でも把握できないそうです。一年草は毎年植え替えられ、今でも 11 人の庭師によって手入れされています。

庭の中には、1998 年にクロード・モネ財団と愛知県豊橋市にある豊橋総合動植物公園（のんほいパーク）との交流を記念して、ツツジ（豊橋市の花）と次郎柿（豊橋市の名産）を植樹したことを示すプレートが設置されています。

パリの日本大使館員がフランスで見つけた日本

高知県北川村には、「北川村「モネの庭」マルモッタン」があります。北川村の熱意に応えて、ジヴェルニーの庭師が現地に赴いて、公園の整備をアドバイスしました。今年は開園 20 周年を迎えて、記念行事にはジヴェルニーから関係者が出席する予定でしたが、残念ながら新型コロナウイルスの感染拡大により実現できませんでした。

モネが愛した庭を通じた日仏交流が、これからも続くことを願っています。（クロード・モネ財団のモネの家と庭園は、2021 年３月まで冬期休業中。https://fondation-monet.com/ja/ ）